

石巻市内へのアライグマの侵入について

本学では2020年4月より、道路管理者のサポートを受けながら、石巻市内で発生する野生動物の交通事故（ロードキル）の調査を実施しています。

2023年12月7日、国土交通省東北地方整備局南三陸沿岸国道事務所・三陸道維持出張所で、回収されたロードキル個体の確認作業を行った際に、アライグマ (*Procyon lotor*) の死体（体重：約10kg、性別：オス）を確認しました（図1）。石巻市内でのアライグマの確認は、私たちが調査を開始して以来、はじめての事例です。



図1. 石巻市内で確認されたアライグマの死体

2018年に公表された環境省の報告書によると、宮城県内でのアライグマの分布は仙台市周辺に限られ、県北地域に連続分布する集団はありません（図2）。今回石巻市で確認された死体は、仙台市から北上してきた個体が事故に遭ったのだと思われます。

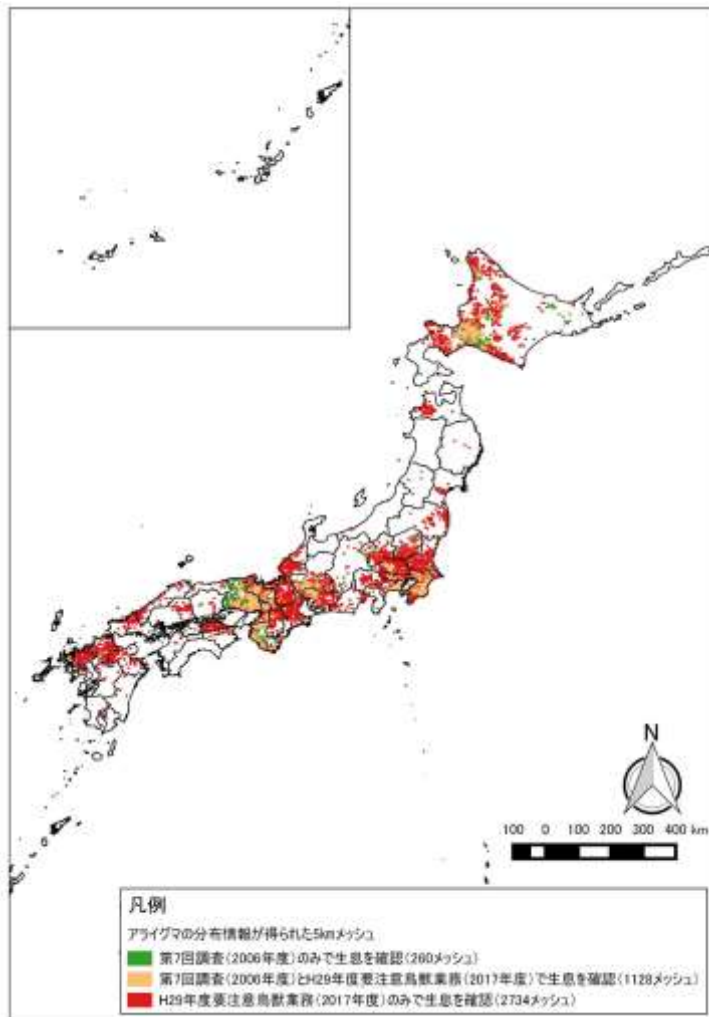


図 2. アライグマの生息分布情報（環境省, 2018）。石巻周辺では生息が確認されていない。

アライグマはもともと北米原産の動物であり、昭和 40 年代にペットとして日本に持ち込まれましたが、その後逃げ出したり捨てられたりしたものが野生化して各地で分布を広げています。特定外来生物 (invasive alien species) として全国で駆除が進められています。

アライグマによる被害として、①生態系への影響、②農林水産業に関わる被害、③生活被害が挙げられます。

- ① 生態系に関わる被害：アライグマは雑食性で、小哺乳類から魚類・鳥類・両生類・爬虫類・昆虫類、野菜・果実・穀類など、なんでも食べます。ニホンザリガニやサンショウウオなど、在来種の捕食が報告されている地域があります。北海道では、シマフクロウやタンチョウの生息地周辺でアライグマの姿が確認されており、これら固有在来種への補色が懸念されています。アライグマの侵入により集団営巣を放棄したケースも知られており、他種の繁殖に悪影響を及ぼす可能性があります。
- ② 農林水産業に関わる被害：各地で、アライグマによる農作物に対する深刻な被害が報告

されている。特にトウモロコシ、飼料、養殖魚、メロン、スイカ、イチゴ などへの食害は農林水産業に影響を与えます。

- ③ 生活被害：アライグマに寄生する動物の影響で、人畜共通の感染症や狂犬病に罹患する可能性があります。成獣は攻撃性が高いため、噛まれたり引掻かれたりしてケガをします。アライグマが民家の屋根裏で営巣した場合に、糞尿被害が生じることもあります。

アライグマが石巻地域で定着・繁殖した場合、この地域での農作物被害や人身被害、在来肉食獣との競合の発生が予想されます。石巻市よりも北部に分布が拡大した場合、ガン類の越冬地として有名な伊豆沼／内沼など湖沼での鳥類／在来魚への食害が懸念されます。

アライグマは、黒と白のシマがある尾が特徴的な動物です。タヌキが4本指であるのに対し、アライグマは5本指である点も異なります。アライグマを目撃した場合、情報提供をよろしくお願いいたします。

本学はこれからも地域の問題解決に積極的に取り組みます。

令和5年12月25日
理工学部生物科学科 辻大和

